

先進治療看護学領域

構成メンバー

教授 佐藤正美

教授 中村美鈴

准教授 望月留加



領域の特長

先進治療看護学領域に関する看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法についての批判的吟味を通しクリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を理解する。また、科学的根拠に基づく質の高い看護ケアや看護モデル他、新たな知の創出につながる看護実践開発に関する研究方法について共に探究する。加えて、看護実践上の研究課題に対する量的質的研究方法の洗練やその選択、看護ケアや看護モデルの開発後の評価方法、ヘルスケアシステムを含め視野に入れた看護実践開発研究について理解を深め、博士論文を自律して推進するための研究能力を培う。

教員の研究テーマ

■佐藤 正美 教授

手術療法をはじめ、特にがん治療中や治療後に生じる機能障害や後遺症を持つ患者や家族に焦点をあて、症状緩和やQOLの向上へ向かう看護実践へのエビデンスを提示する研究や看護実践を導くモデルを開発する研究を計画、実施する過程を学修する。博士論文を作成し、自立して研究を推進できる能力を修得するとともに、教育を担い得る能力と看護学の発展に寄与する能力を養う。

■中村 美鈴 教授

クリティカルな状況/周手術期にある患者・家族、関与する看護職に関する研究課題を探究するための創出した研究方法を十分に吟味したうえで、研究計画書に即して、自立して研究活動を推進する過程を学修すると共に教育を担い得る能力を養う。目的、研究方法、結果、考察の論理的な一貫性、かつ新規性・革新性のある博士論文を作成する。研究成果は、国内外の学会や雑誌等で公表し、クリティカルケア看護学ならびに周手術期看護学の学問的発展に寄与する能力を培う。

■望月 留加 准教授

がん患者や家族の生活を支援し、生き方を選択していくプロセスに寄り添うために、セルフマネジメントや心理社会的苦痛に対する支援モデルの開発等をケア評価のための指標の開発も含めて研究を行う。また、今後のがん医療・看護に必要な先駆的分野に関わる現象の探求や実践的研究につながる質的研究についても学修し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力と共に、教育を担い得る能力、看護学の発展に寄与する能力を養う。